

基本構想



1 まちづくりの理念

人とともに、歴史とともに、 やさしく強いまち かしはら

市民をやさしく包み込む檀原、市民を強く守る檀原を、豊かな歴史文化とともに人と人が思いやり支え合いながら、市民と行政が協働して創りあげていくことをまちづくりの理念とします。このまちづくりの理念は不変のものとして、第4次総合計画でも継承していきます。



2 将来ビジョン

将来にわたる住みよいまちづくり、持続可能なまちづくりに向け、市民、事業者、行政が、それぞれの暮らしや仕事を通じて、それぞれの役割を果たしながら協働でまちづくりを進めていく共通の指針として、将来ビジョンを次のように定めます。

はじまりから未来へ、 つながりきらめくまち かしはら

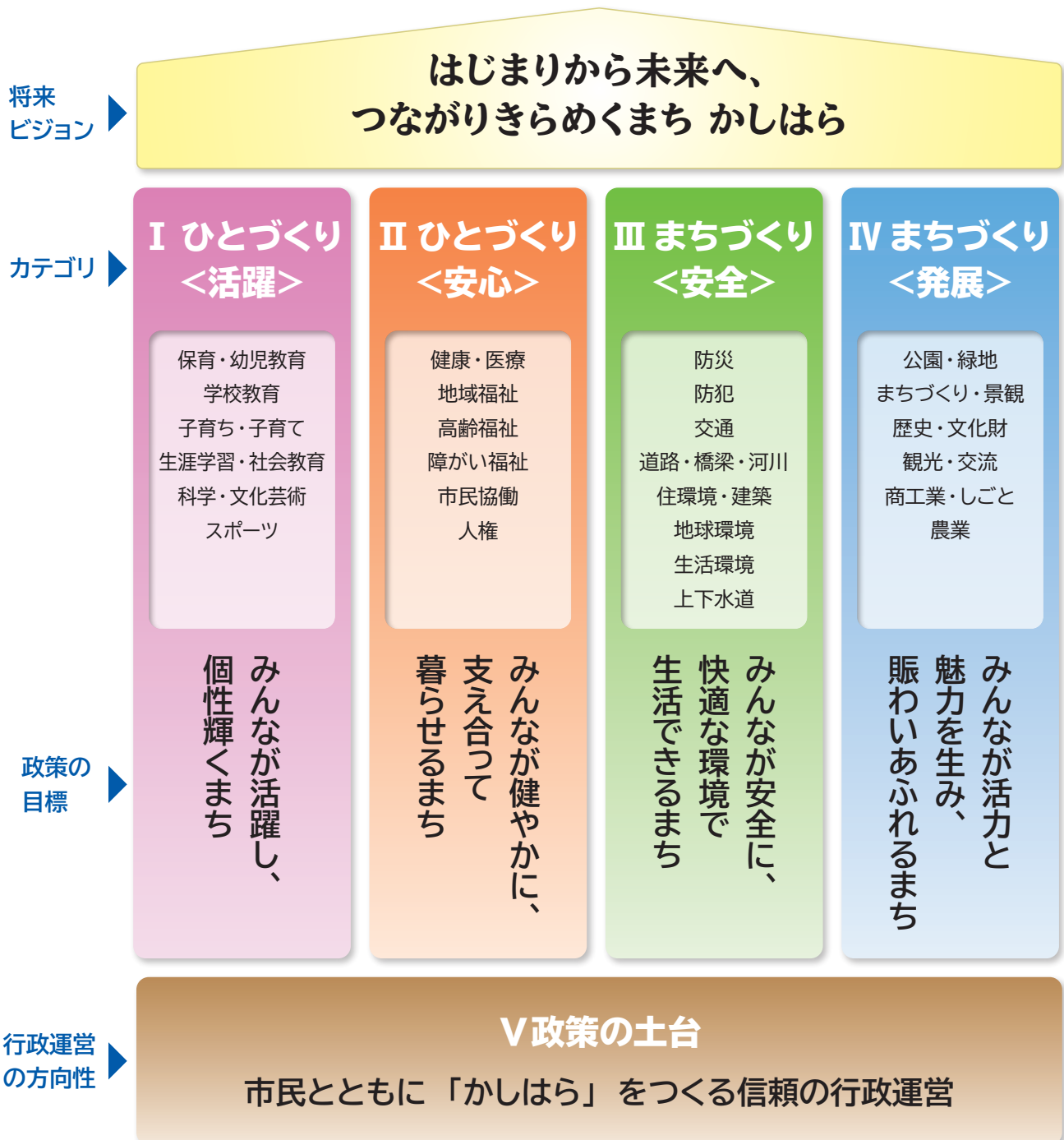
「はじまりから未来へ」には、2つの意味があります。1つ目は日本国はじまりの地*という檀原らしさと歴史の深さを次世代に継承しながら、来たる超スマート社会*にも対応していくこと。2つ目は人生100年時代*を迎えるなかで、人の一生の表現として出生から約100年、安心して暮らしていくことができる市になることを目指すことです。

「つながりきらめくまち」は、本市と関わるすべての人が、人や物、縁、歴史、自然などつながることで、活気があふれてきらめくような人中心のまちを目指すことを意味します。

この檀原に住むことに喜びや誇りを感じることや、この地を訪れる人にも来てよかった、住んでみたいという魅力を感じるまちにしたいということから、この将来ビジョンを考えました。

3 政策体系

政策体系は、将来ビジョンがあり、その下に4つの政策及び政策の土台で構成されています。政策とは将来ビジョンを達成するための手段です。一方で、構成される施策分野によって達成されるべき目標でもあるため、それぞれの政策の趣旨に従って施策分野が組まれています。政策は大別して「ひとづくり」と「まちづくり」としていますが、支援をする対象別に2つずつ分けて合計4つで構成しています。また、政策の土台とは、どの政策にも関わる基礎的な事務事業*で構成されており、行政運営の全体的な方向性を示しています。



■政策の目標と行政運営の方向性について

政策の目標と行政運営の方向性にある各々のフレーズの意味について説明します。

I みんなが活躍し、個性輝くまち

ひとが生まれてから成長し、シニアとなっていくすべてのライフステージにおいても、何かをしたいときに、できるだけ妨げになる要因を減らしていくことで個性が輝くまちになると考えています。世代別には、子どもへの教育や子育て世代への養育の支援、全体的にはスポーツによる体力づくりや生涯学習などにより、個性を潜在化させることなく一人ひとりが活躍できるまちになるような施策が求められています。

II みんなが健やかに、支え合って暮らせるまち

市民の誰もが安心して暮らしていくことができるまちといえるためには、心身ともに健やかであること、そして、みんなで支え合うことが重要です。例えば、疾病の対策や介護サービスの提供などによって、心身ともに健やかに生活ができる環境が求められています。また、配慮を要するひとに対しての理解を深め、みんなで助け合い、支え合うことができる環境づくりが求められています。

III みんなが安全に、快適な環境で生活できるまち

ひとが安全に生活できる環境と快適に生活できる環境は必ずしも一致しないなかで、バランスのとれる持続可能なまちづくりを行うことが求められます。なお、快適に生活できる環境とはひとだけに限るのではなく、生物多様性の観点から、動植物にとっても住み続けることができる必要があります。豊かな自然環境と人社会の調和が図られる環境保全に努めることが求められています。

IV みんなが活力と魅力を生み、賑わいあふれるまち

はじまりから現在まで引き継がれた自然や歴史的資産の魅力を再発見することで、市民の郷土に対する誇りや愛着をより醸成していくと考えられます。また、産業・観光・交流などによって、市民をはじめとする多くのひとを呼び込み、活力を生み出すことが重要です。このように魅力や活力を創出するため、みんなで賑わいをつくるプラットフォーム*となるまちになることが求められています。

V 市民とともに「かしはら」をつくる信頼の行政運営

各政策を実行するにあたっての方向性を示しています。人口減少や少子高齢化などによって、ヒト・モノ・カネの経営資源が減少するなかで、行政運営においては有効活用していく必要があります。そのためには、どのような事業においても、どのような主体と協働できるか、どのような技術で効率化できるかを意識することが重要です。また、効率的・効果的な行政とするため、情報の適正な活用が求められています。